（1）　明治20年創刊　第39864号　（明治25年3月28日第三種郵便物認可）　THE JOMO　（日刊）

上毛新聞

〒371-8666 前橋市古市町1-50-21 上毛新聞社 市外局番(027) 電話 254-9933(広告部)254-9944 254-9131(事業部)254-9933 254-9985(出版)254-9966 254-9881(総務)254-9984 254-9977(総務)254-9911 上毛新聞社 2006年

赤岩（合六）を保存選定

重要伝統的建造物群 富岡製糸場 国重文に

文化審答申

重伝建選定の答申を受けた六合村赤岩地区

国の文化審議会（阿刀田高会長）は二十一日、養蚕で栄えた農村風景が残る六合村赤岩地区について国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）への選定と、富岡市の国史跡・旧官営富岡製糸場の建造物指定を、小坂憲次文部科学相に答申した。重伝建選定の答申は県内で初めて。赤岩地区と同製糸場はともに、世界遺産登録を目指す本県の県遺産候補。小坂憲次文部科学相は答申を受け、両物件を、今週中に官報告示する。

国の文化審議会（阿刀田高会長）は二十一日、赤岩地区と富岡製糸場の両物件を国重要文化財（国重文）に指定するよう、小坂憲次文部科学相に答申した。

赤岩地区は古い民家や蔵が建ち並ぶ農村集落。母屋の多くは切り妻造り総二階建てで、かつては養蚕に使用した二階を養蚕に使用した形をとどめている。

国重文指定の答申を受けた旧官営富岡製糸場の繰糸所（中央）と東繭倉庫（右）

関連記事4、14、19面

重伝建は歴史的文化的に重要な建物群と町並みの保存・活用を図る制度。全国では宿場町や門前町など七十二地区が選定されている。

富岡製糸場は、明治五年に「殖産興業」を掲げた政府が、フランスの技術を導入して建てた。敷地内に繰糸所と東西の繭倉庫、鉄水槽、ブリュナ館など一八三二（明治五）年の操業開始前後に建てられた計十一件。

同製糸場の敷地一帯は昨年七月、歴史的価値を認められ国史跡になった。今回は建物そのものの建築と歴史的な価値による国重文指定で、県内初の二重指定となった。

答申では、赤岩地区と同製糸場を含め全国五地区が重要建造物群に選定、十一件が国重文指定を受けた。六月ごろに官報告示される。

足元固め他地区へ

12旅団中心 第10次支援 来月上旬イラクへ

陸上自衛隊は、イラクで活動する陸上自衛隊の第十二旅団（旅団長・小野寺一清陸将補）を中心に編成し、八月上旬までに第十次イラク復興支援群の編成命令を出す方針を固めた。五月上旬の第二旅団（機甲師団）を中心に編成し、八月上旬までが事実上の活動期間となる。この間に治安状況を見極めながら、第十次群は部方面隊の支援群の編成命令、翌三月から順次出発する。

第十次群は第五方面隊（北部方面隊）を中核とする。この間に治安状況が安定すれば、第十一群の派遣を検討する。

現在派遣中の第九次群の活動期間を延長して六月末まで撤退させる選択肢をぎりぎりまで残してきた。

だが、米軍などが担う治安維持任務の権限をイラク側に移譲するプロセスが来月以降にずれ込むことが確実となり、ロンドンでの日本、英国、オーストラリアなど関係国の閣僚会議（ロンドン会議）で、撤退時期を延期する方向で調整する。

現地では、米軍などが担う治安維持任務の権限をイラク側に移譲するプロセスが来月以降にずれ込むことが確実となり、ロンドンでの日本、英国、オーストラリアなど関係国の閣僚会議（ロンドン会議）で、撤退時期を延期する方向で調整する。

防衛庁は政治プロセス展開などを見極めながら第十次群で早ければ六月末までに撤退準備に入る。

現在に駐留する自英豪軍は撤退を同時に発表し、ベースの決算行列撤収を非常勤に移行して秋に撤退する。

撤退側は昨年五月、通年ではなく、ほぼ同時期引き揚げる方向で調整を続けてきたが、来月中にもあらためてロンドンで米国中心に調整する。しかし、容認する。

選挙カーでの遊説に手を振って応える支持者

転換、継承で一騎打ち

長野原町長選

長野原町長選候補者

候補者	年齢	肩書	党派
福嶋　誠	54	会社社長	無新
高山　欣也	62	前町教委長	無新

高山候補　福嶋候補

「町づくりの路線転換で活力のある町」を目指すと訴える高山欣也候補の一騎打ち。福嶋候補は「町づくりの路線転換」を前面に出す田村確也候補、新市発足までの余曲折を反映して、選挙戦は熱を帯びる。政策論争から地域対抗戦の様相が強まる中、有権者の関心を集める懸命での攻防が続いている。

県議十二年の実績と若さを強調する石原候補は、「構築を訴える藤沢敏夫候補、みどり市誕生の功績を訴える田村確也候補」と、市長選の争点を明確にしている。

みどり市長選 実績と若さを強調 石原候補
知名度浸透に重点 藤沢候補
地元全区で演説会 田村候補

田村候補　藤沢候補　石原候補

合併前の三町村は国政選挙や県議選の選挙区が異なり、「手応えがつかみきれない」（各選挙関係者）と他地区の事情への戸惑いもぞく。各陣営とも初代市長への注目度と過熱する選挙戦ではまなく同じ、政策と名前の浸透に重点置く。候補者は歩いて支持を訴え、「握りかえしてくれる人は強い」と手応えに自信を見せる。

田村陣営は笠懸の全区を発足させた。東町（旧で個人演説会を開き、「みどり市づくりの立役者」をアピール。大間々町は切り崩しを目指して連日、約五十人が支持を訴える。選対は「反応は良く、業回りで相大を図る。組織力で勝るが、「油断は怖い」と、引き締めを強めている。

藤沢陣営は昨年の旧大間々町長が「草の根の組織を中心に活動している。「草根なので無理に人を集めない」が基本方針。知名度が低い笠懸、東両地区は選挙カーをくまなく回し、政策と名前の浸透に重点置く。候補者は「握りかえしてくれる人は強い」と手応えに自信を見せる。

田村陣営は笠懸の全区を核にミニ集会を図る。組織力で勝るが、「油断は怖い」と、引き締めを強め取り付けた。笠懸では、業回りで相大を図る。組織力で勝るが、「油断は怖い」と、引き締めを強めている。

みどり市長選候補者

候補者	年齢	肩書	党派
石原　条	41	前県議	無新
藤沢　敏夫	59	団体役員	無新
田村　確也	68	旧町長	無新

主な支援者・団体

▽石原候補　矢野亨（選挙後援会長）、小林進（東後援会長）、深沢富四郎（選対顧問）

▽藤沢敏夫候補　田部井孝市（選対委員長）、黒武夫（後援会長）、穴原陽八郎（顧問）

▽田村確也候補　支援議員（大沢賢一団長）、鈴木義明（選挙事務長）、青山正敏（選対委員長）

同日地方選あす投票

関連記事15、19面

八首長選を含む同日地方選は二十三日、一斉に投票が行われ、即日開票される。財政再建の手法や自治体のまちづくりを争点とした選挙戦もいよいよ大詰め。二十二日は各陣営が最後の遊説に繰り出し、支持の一積みを目指す。

首長選は高崎、安中両市に各四人が出馬、みどり市と東吾妻町が三つ巴、桐生市、藤岡、南牧、長野原の四市町村が一騎打ちで激突する。高崎市区議補選は九人、伊勢崎市議選とみなかみ町議選は計八人、一人が有権者の審判を受ける。

当選圏500票前後か

みなかみ町議選

合併後初の町議選となる同じ、スローガンの「しがらみのない町づくり」の浸透を図る。

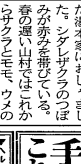
高山候補はハツ場ダム建設に伴う水没五地域を中心に、町内全域にわたる後援会活動を展開、前町教育委員長の経験を生かし、「教育をするな」と追い込みをかける。選挙カーで町内全域をくまなく回り、議員の定数（定数三三）は月曜日、水土、新治の三選挙区とも定数を上回り、現職二八人、新人八人、元職二人の計二十九人が激戦を繰り広げている。

各陣営は地元を固めたり上げ、どの候補者も四百～五百票が安全圏とみられる。

（ルポおわり）

県立図書館長に岡田氏

燒平堂元常務 文学館長も兼務



岡田氏

県教委は二十一日、県立図書館と県立土屋文明記念文学館の館長に、前県教育長が兼務していた燒平堂元常務（69）＝前橋市三夜沢町＝の起用を決めた。民間出身の燒平堂元常務は初めて。一年に、NHK関東甲信越放送文化賞を受賞している。

燒平堂元常務は、「文学館の今年四月から専任館長が不在で、内山征洋前館長が不在で、内山征洋前館長が兼務していた。岡田氏は、「四十数年、本の世界にいた経験を生かすとともに、現場をよく見て、企画などを提案していきたい」と抱負を述べた。

岡田氏は旧群馬町生まれ。二〇〇三年まで燒平堂で勤務。企画展や文芸講座などが評価され、〇四年から、文化庁の文化審議委員を務めるなど、文化庁の文化審議委員を務めるなど、文化庁の文化審議委員を務めるなど